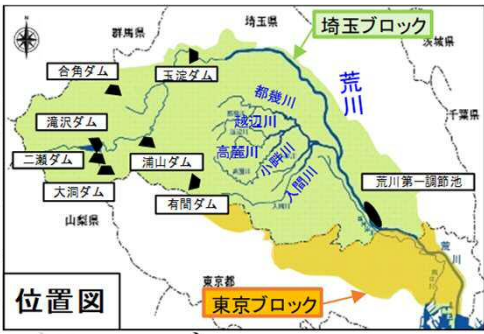


荒川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～我が国の社会経済活動の中枢を担う東京都及び埼玉県を守る抜本的な治水対策の推進～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、荒川においても、事前防災対策を進める必要がある。荒川は、高密度に発展した首都圏を氾濫区域とし、下流部は、広大なゼロメートル地帯が広がっており、氾濫した場合の被害は甚大となることを踏まえ、以下の取り組みを実施することで、国管理区間においては、戦後最大の昭和22年9月のカスリーン台風と同規模の洪水を資産の集中する首都圏中枢部において安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



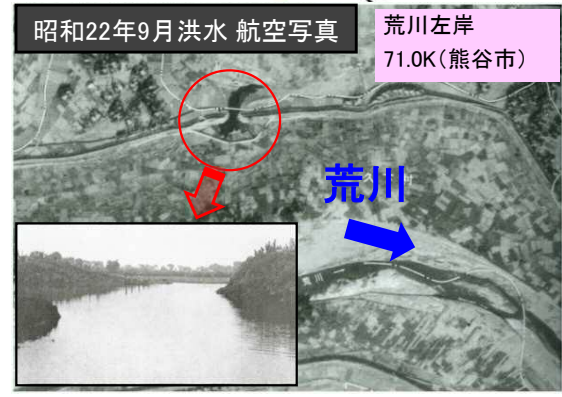
● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備・護岸整備等、河道掘削
- ・洪水調節施設（調節池、遊水地）整備
- ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
- ・下水道の排水施設の耐水化
- ・校庭貯留、雨水貯留浸透施設の整備
- ・グリーンインフラ整備（公園緑地の整備、施設の緑化等）
- ・利水ダム等における事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、埼玉県など）等



● 被害対象を減少させるための対策

- ・高台まちづくりの推進
- ・立地適正化計画の見直し
- ・庁舎や防災拠点病院等の自衛水防の推進（耐水化、電気設備の嵩上げ、止水板の設置）
- ・中高頻度の浸水想定区域図の作成 等



● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・避難施設等整備・確保
- ・ハザードマップの改良・周知等
- ・タイムラインの策定・運用
- ・講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進
- ・防災教育や防災知識の普及
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・災害に備えた家庭内の食料備蓄の推進
- ・危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置 等

※上図において氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策には危機管理対策等は含まれていない。
 ※ここでいう洪水とは河川から水があふれ氾濫することではなく、河川の水量が著しく増加することをいう。
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
 ※上図における対策は、都県及び市区町村の代表事例を記載。

荒川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～我が国の社会経済活動の中枢を担う東京都及び埼玉県を守る抜本的な治水対策の推進～

R 3.3 策定

- 荒川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、都県、区市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】令和元年東日本台風において、甚大な被害が発生した入間川流域等にて、同洪水が再び発生しても堤防からの越水を防止をする堤防整備・河道掘削を主に実施。
 - 【中期】東京都・埼玉県を守る洪水調節施設を整備するとともに、JR川越線の架替を実施。
 - 【中長期】流域全体の安全度向上を図るため、更に洪水調節施設を整備するとともに、中上流部の堤防整備、河道掘削を実施。
- あわせて、我が国の社会経済活動の中枢を担う流域の特徴を踏まえ、流出抑制対策（下水道雨水貯留施設、校庭貯留の新設・運用）や高台まちづくりの推進、利水ダムの事前放流の実施等の流域における対策、タイムライン、広域避難計画等のソフト対策を実施。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	令和元年東日本台風から堤防越水を防ぐ堤防整備・河道掘削	国交省、埼玉県	支川整備 (入間川プロジェクト)		
	【支川入間川合流付近から下流】カスリーン台風から東京都・埼玉県を守る堤防整備・河道掘削	国交省、埼玉県、東京都			
	【支川入間川合流付近から上流】カスリーン台風から東京都・埼玉県を守る堤防整備・河道掘削	国交省、埼玉県			
	洪水調節施設の整備	国交省、埼玉県、東京都	環状七号線地下広域調節池、 城北中央公園調節池(一期)	荒川第二・三調節池整備(JR川越線架替) 支川遊水地整備	荒川第四調節池整備
	流出抑制対策	国交省、埼玉県、東京都、市区町村	下水道雨水貯留施設、校庭貯留、公園貯留、 水田貯留など整備・運用継続、公園一体型調節池整備		
	利水ダムによる事前放流の実施	国交省、埼玉県、水資源機構			
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の見直し	市町村	災害リスクを考慮した 立地適正化計画の策定		
	高台まちづくりの推進	国交省、東京都、市区町村			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難施設等整備・確保	埼玉県、市区町村		高台避難場所整備	
	被害軽減対策	国交省、埼玉県、東京都、市区町村	タイムライン、広域避難計画の作成・運用		
	ソフト対策のための整備	国交省、埼玉県、東京都、市区町村	危機管理型水位計、簡易型監視カメラ、 越水センサーの設置・運用		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

■河川対策
 全体事業費 約9,543億円
 対策内容 堤防整備、河道掘削
 洪水調節施設
 (調節池、遊水地)整備等
※都管理河川の河川対策事業費については、補助・交付金に係る当面の事業費を計上している。

■下水道対策
 全体事業費 約4,080億円
 対策内容 下水道等の排水施設、
 雨水貯留施設の整備等

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる
 場合がある。
 ※ ■■■ : 対策実施に向けた調整・検討期間を示す。